

新潟理窓

第33号

発行所 新潟支部局
事務事

ご挨拶



新潟支部長
上杉 肇

支部長をお引き受けし5年目となりました。今年度の行事も、副支部長、役員を始め、会員の皆様のご協力により、無事に終えることができました。ありがとうございます。また、いただいた事務局長の横尾先生に感謝申し上げます。

さて、6月に母校で行われた支部長会では、理窓会のデータベースと大学のデータベースを統合し情報を一元管理すること、支部に個人情報取扱責任者を置き、個人情報情報を適正に管理し取り扱うことが説明されました。次に、支部活性化の取組について青森、神奈川、新潟、和歌山の4支部の報告がありました。新潟支部の報告では、支部総会や父母会との連携、会報について話をしました。また、課題としては、把握会員数の減少と総会参加者数の伸び悩みを報告しました。支部の活性化は共通の課題であり、どの支部も同じように悩んでいるようです。しかし、積極的な活動をしている例もありました。青森支部は自分たちが主催してサイエンス教室を開催し、子どもたちが科学の楽しさを伝えていました。和歌山支部は月1回の交流会（花見、ハイキング、バーベキュー等）を行い、毎回でなくともどこかで出ていただければよいという参加しやすい雰囲気作りを努めていました。新潟支部でも何かできないか考えたいと思います。その後に行われた代議員総会では、会務報告、決算報告、事業計画、予算案、会則改正

などの議案はすべて承認されました。本山理事長の挨拶の中の「東京理科大学の現状と今後のビジョン」という話では、時代のニーズに合わせる新学部の新設と学部・学科の再編、グローバル化に対応する多様性のあるキャンパスの創設、人生100年時代に向けたリカレント教育（社会人教育）の充実の3つに取組むと説明がありました。長万部校舎の利用を停止したり、薬学部を葛飾校舎に移したり、国際デザイン経営学科を設置したりと大きな変化があるそうです。増淵会長の挨拶では、支部活動の活性化応援をしたいことと、大学が目指していることに対して足を引っ張らずに応援したいという話がありました。母校はこれからも順調に発展していくものと思います。我々新潟支部としては、支部活動を活性化すること、支部の会員がそれぞれの立場で活躍することが、母校支援の第一歩だと考えています。まず、一番に総会の参加者を増やしたいと思います。支部会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

近況報告

H4理・数

池田繁人

平成四年卒になります。卒業してから二十五年以上が過ぎました。年賀状でしか連絡のやり取りがなかった大学当時の仲間と、夏休みを利用して会ってみようかと計画した矢先に、この近況報告の依頼が来ました。これも何か因縁のようなものを感じます。卒業してすぐに新潟県の中学校教員として採用され、現在、十日町市立下条中学校に勤務しています。各学年一クラス、数学教員一人という初めての状況にまだ慣れていない状態です。また、市のエキスパート教員として今年、来年と研修三昧になりそうです。数学教員でありながら、数学の研修を避けてきたプライベートでは、妻一人、子ども二人に

父、母と三世代六人家族です。我が子にイライラせず算数を教えることが課題です。まだ小学校低学年の子どもですが、近い将来に神楽坂キャンパスへ連れて行きたいと思えます。

祝 曹同宗特別奨励賞受賞

S42理学部物理学科卒の石田哲彌氏が曹同宗特別奨励賞（全国表彰）を受賞されました。石田氏は瑞雲寺の住職を務めるとともに、県立高校で教鞭をとっておられました。石仏を研究され、「石仏学入門」「越後・佐渡の石仏」等の著書があります。また、算額研究にも励んでおられ、「秋葉神社の算額」の著作があります。私も一緒に算額に挑戦したことがあります。

今回受賞された「茶席の禅語講座」は40の項目から成り、「和敬清寂」の項では「一見、分野が異なると思える数学の世界においても「和敬清寂（静寂）」をもの見事に表現している等式が存在していた」。奇跡としかいいようがない。「Euler」という大数学者、オイラーが見いだした式である。」と語り、対数・虚数・複素空間へ語りは進み、円周率を「はねつかえりのおてんば娘」と言い、のけ、オイラーについて思いを馳せています。機会があれば手にとってください。（事務局 横尾則幸）

著者 茶席の禅語 講座
著者 石田哲彌
発行所 考古堂
定価 2000円＋税
発行日 令和元年5月30日

情報提供ありがとうございます。

事務局では皆様からの情報をお待ちしています。些細なことでも何でも結構です。

また、会員の皆様へのお知らせでもOKです。裏面の連絡先までお願いします。

